



私がどのように
韓国、韓紙工芸
に出会ったのか
“縁”について
お話ししたいと
思います

世宗学堂ジャーナル⑤

「文化はその国と繋がる きっかけに」

重富弓子 先生（韓紙工芸講座）

私たち家族は2008年、転勤に伴い渡韓しました。

それまで私は韓国について何も知りませんでした。ソウルの場所も韓国の北の方に位置していることに驚いたくらいです。そんな私は当然のようにいろいろなカルチャーショックを受けることになります。



友人の中には言葉が通じなくても携帯電話の契約をする強者もいましたが、私は自分の言いたいことを伝えられないことがとてもストレスで韓国語を学び始めました。そんな中、語学校の友人が明洞の観光公社で行っていた韓国文化体験に誘ってくれたのです。そこで韓紙工芸に出会いました。

この講座は外国人に向けて韓国の文化を広める趣旨のもので、韓紙工芸はその中の一つでした。ここで出会った講師の先生が恩師となるチェ先生です。

まだ韓国語もろくに話せない時から先生のご提案で、ご自宅での指導を受けることになりました。

帰国予定が決まっていたので研究課程が修了できるように年単位での計画を立てていただきました。

おそらく先生との出会いがなければ今の私はなかったと思います。



<左からチェ先生、権先生、重富先生>



振り返ると、本当に不思議なご縁だと思えます。生家は紙を扱う家業でしたし、幼い私が知らなただけで韓国系の従業員さんもいらしたので紙や韓国が幼いころから身近にあったのです。意識しないということは、知覚していない。ちょっと怖さや愚かさにも感じてしまいます。ですがこのように自然と繋がってくれたことには感謝しかありません。

さて、韓紙工芸の中にも種類がありますが私が制作しているのは剪紙工芸です。カッターなどを使って文様を切り出していきます。日本や中国にも切絵がありますが、日本は黒で、中国は赤の紙で切り出されるものが目につきます。韓国はこの色で、ということはありません。



骨格切り出し



骨格組み立て



色紙カット



文様カット、色入れ

一日体験などで経験された方も多くいらっしゃると思いますが、骨格から白紙、色紙、文様のカット、その紙を骨格に貼り、文様にも色を入れていく作業が一通りの手法になります。一日体験では準備されたものを貼っていく作業のみになることがほとんどです。

色の組み合わせはその人にしか生み出せない感覚があって、同じ骨格で同じ文様を使ったとしても印象が違ってきます。文様が変わるとなおさらです。文化院の講座では決まった骨格を使いますが、同時に自分以外の生徒さんの作品を見ることができるのでお互いに刺激し合えてとてもいい環境で取り組んでいると思います。もちろん私も生徒さんたちから刺激をもらっています。



文化院の生徒さん作品例

毎年文化院では交流会での展示、4月には主宰教室の教室展を開催しております。今年は5月に延期となりましたが韓国の文化である韓紙工芸を目にさせていただき、たくさんの方に日本での韓国に触れて頂けたらと思います。文化に触れることはその国を知ることにつながります。